

『哲学の探求』第27号刊行にあたって

1999年。梅雨が明けようとしている7月17日、18日の江ノ島で、第27回全国若手哲学研究者ゼミナールが開催されました。この冊子は、ゼミナールでの研究発表、テーマレクチャーに基づいたものです。

全国若手哲学研究者ゼミナール（通称「若手ゼミ」）は年1回開かれる、合宿形式の研究集会で、大学院生やオーバードクターに、大学や地域の垣根を越えて哲学を議論する場を提供することを目的としています。

昨年の若手ゼミには、首都圏の大学からの参加者に、岩手大、名古屋大、京都大、大阪大学から参加する方を加えた40名弱の若手研究者が集いました。その内容は、「時間論」のテーマレクチャーを中心に、個人研究発表が9つ、読書会形式の分科会が3本、そして、くだけた形のディスカッションと、盛りだくさんなものでした。

昨年の若手ゼミに参加してくださったみなさん、とりわけ、3名のレクチャーの方々、そして、若手ゼミを盛り上げて下さった、個人研究発表者、分科会でのレポーターの方々に、若手ゼミ世話人を代表してお礼を言いたいと思います。

今回の『哲学の探求』27号には、7月14日、15日に開催予定の2000年度の若手ゼミの案内が掲載してあります。今年の若手ゼミでは、「道徳の根拠」をテーマとするテーマレクチャーを予定しており、3人のレクチャーによる発表要旨がこの冊子に載せてあります。2000年度の若手ゼミへの案内とあわせてご覧下さい。

私たちは、この列島に大勢いるはずの哲学研究者のほとんどと、いまだお互いを知ることなく日々の研究活動を送っています。私たちを隔てるのは、地理的な隔たりや専門分野の隔たりなのかもしれません。そうしたお互いを知らぬ研究者をつなぎ、自らの思索や研究をより広い世界へと開いてゆくこと。そうしたことが私たちには必要だし、そうしたことができる場に若手ゼミがなったら、と思っています。

2000年 4月28日

第27回全国若手哲学研究者ゼミナール世話人代表
法野谷 俊哉